

苦

三年

画数 廿 艹 苦
ク
ク

くるしい 苦しむ 苦しめる
にがしい じる

成り立ち



草がふたばを出した形をあらわし、「草」のいみをあらわした「艹」と、「古びた」といういみをあらわした「古(年124)」とを組み合わせて作った字で、「古びた草」といういみで「薬草」をあらわした字です。

中国では、むかしから「薬」といえば「薬草」にきまっていた。だから、「薬(年425)」という字が作られたのです。薬は「にがい」ものですから、「苦は「にがい」といういみにつかわれました。

また、「にがい」薬をのむのは「くるしい」ので「苦しむ」といういみにもつかわれるようになりました。

「口は漢音がコウで、呉音がクである。「古」の音の口はコウがつづまったものであり、「苦」の音のクは呉音が定着してしまって、漢音がやらなかったためである。」

使い方

▽いもうとが、薬をのむのをいやがったので、ぼくは「良薬は口に苦しだよ」といいました。薬はたしかにのみにくいものですが、のまなければ、よう気はよくなりません。

▽いもうとのびよう気がわるくなって、ひどく苦しそうなので、みんな心ばいました。

熟語例

▽苦言(苦い言葉、といういみで、言われた方では苦い思いをするが、ためになるちゅうくのことをいいます。「目にあまるたいどなので、思いきって苦言をいした」などというふうにつかいます。)

▽苦心(あれこれと、苦しんで、心をつかって、なにかをすること。「苦心のけつ作が、できあがった」などというふうにつかいます。)

▽苦勞(なにかをするために、からだや気をつかって苦しむこと。「苦勞のすえ、やっと、二人の子をそだてあげた」などというふうにつかいます。)

▽貧苦(貧しさゆえの苦しみ)

▽病苦(病気の苦しみ)

使い方

▽おとうさんは日よう大工が大好きです。色々な道具を用意して、いすや犬小屋やたなを作ります。

▽わたしの家の家具は、どれもみんな古くなりました。おかあさんは、テーブルを買いかえたいといっています。

熟語例

▽道具(なにかを作ったり、したりするのに使うもの。例えば大工道具など)

▽家具(家の中にある道具。とくにテーブル、いす、食器棚、応接セットなどの大きなものをいいます。)

▽雨具(雨がふっている時に必要な道具。かさやレインコート、雨靴などをいいます。)

▽工具(工作をする時に必要な道具。とくに機械で工作をする時に使う刃物のことをいいます。)

▽文具(「文房具」ともいいます。鉛筆、ペン、筆、ノート、原稿用紙など、字を書くのに必要な道具のことです。)

▽具備(備えていること。「力と気品を、二つながら具備している人」などというふうにつかいます。)

具

三年

画数 口 月 且 具
グ
ク

成り立ち



財さん(お金)のいみをあらわした「具(年11)」とりよう手の形をあらわした「六」とを組み合わせて作った字で、「りよう手でお金をだいたいにもつ形」をあらわしたものです。「お金をだいにそなえおく」ことをあらわした字です。

「そなえおく」とは、「いつでもつかえるように、よいしておく」ことです。お金をむだにつかわず、だいたいなことにいつでもつかえるように「そなえおく」ことをあらわした字です。今では、お金にかぎらず、「よいことです」と、また、「よいしておくもの」といういみにつかわれます。例道具、家具、雨具、工具。